

# 現代若き女性氣質集

岡本かの子

青空文庫



これは現代の若き女性氣質の描写であり、諷刺であり、概観であり、逆説である。長所もあれば短所もある。読む人その心して取捨よろしきに従い給え。

○彼女はじつとして居られなくなつた。何か試み度がつてゐる。自分を試して見度がつている。自分の市場価値を。

○「恋など馬鹿らしくて出来なくなりましたわ」と言う。「けれども愛の気持ちだけは失い度くありません。」

○彼女に取つてスピードで無いものは魅力が無い。それで退屈な時は、せめて街の自動車を眺める。

○「結婚？」そうね。出来るだけ我儘をさして呉れる男か、それとも絶対的に服従せられる強い男とならばね。」

○チョコレートを食べられる暇さえある職業だつたら職業というものは何という好もしいものでしよう。

○繕つた靴下でも穿くときは皺の寄らないように。

- 「お習字、生花<sup>いけばな</sup>、お琴<sup>こと</sup>、おどり——こういうものに却つてモダニティを感じ、習い度いと思うことはあるけれど、さて、いざとなつて見るとね。」
- 「何でも断<sup>ことわ</sup>られて顔が赭<sup>あか</sup>くなるようじや駄目<sup>だめ</sup>よ。」
- 女に向つて機嫌<sup>きげん</sup>を取るような男も嫌いなら、見下<sup>こしら</sup>げて権柄<sup>けんぺい</sup>づくな男も嫌い。
- 自分で慥えたものくらい気に入るものはない。洋服でも、お友達でも。
- 「お金入れの口を開けてみて、お金が一文<sup>いちもん</sup>も無いときは何だか可笑<sup>おかし</sup>くつて可笑くつて、あはあは笑うのよ。たとえ困るのは知れ切ついても、若さのせいを知らん。」
- 「訣<sup>わか</sup>れの挨拶<sup>あいさつ</sup>のお辞儀<sup>じぎ</sup>をしてしまつてから、また立話をする。あんなことあたし達にはないわ。」
- 「おなかが減<sup>す</sup>って家へ帰る電車がなかなか来ないときだけ、ちょっとセンチになるわよ。」
- 来年あたりのことまで見当<sup>わか</sup>がつくけれど其の先は考えても判らない。考えると頭が痛くなるから止す。
- ついでに洗う洗濯物が無くて、お湯にどっぷり入るときくらい嬉しいことはない。
- 「どうしてこう心配事が出来ない性<sup>しょうぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>だろう。もつとも心配事があると直ぐレコー

ドをかけて直ぐ紛らかしちまう癖があるんだけれど。」

○牡丹や桜のように直ぐ散ってしまう花には同情が持てない。枯れてもしがみ付いている貝細工草や百日草のような花に却つて涙がこぼれる。

○ラグビーを見ているときだけ男の魅力を感じる。

○子供は少し不器量なのが好き。

○「自分ながら利口過ぎるのが鼻につくから、少し馬鹿になる稽古をしようと思うんだけど。」

○お金があると、ついお友達と円タクに乗つてしまつて。

○大概な事は我慢が出来るけれど。鈍感なものだけはトテモ堪らない。

○ジャズの麻痺、映画の麻痺、それで大概の興味は平凡なものに思える。始終習慣的に考へているのは「何か面白いものは無いか知らん。」

○「一生のうち一度だけ、巴里は死ぬほど行つて見度いわ。」

○フレツシユの苺クリーム、ブライトな日傘、初夏は楽しい。

○折角ハイキングに行つても、帰つて来て是非銀座へ寄らねば何となく物足り無い。

○偉くなろうなどとはちつとも思わない。空虚な気がする。それより刹那々々の充足感。

○そりや時々はくさることもあるわ。希望の飛行機が経済的事情にぶつかって、うまく飛行が運ばない時の気分のエアポケット。けれども理由を運動の不足になすり付けてしまつて、せつせとスポーツすれば癒<sup>なお</sup>る。

○わたくし達は、外でお友達と一緒に<sup>いっしょ</sup>の時は「ノシちやえ」などと隨<sup>ずい</sup>分<sup>ぶん</sup>、男のような言葉も使つてわあわあ騒ぐ。けれども家へ帰つて家庭の人となる時は、まるで別人になつておとなしい良家の娘になる。それでいて、どつちにもちつとも矛盾<sup>むじゆん</sup>を感じないのは、われながら不思議だ。

○「一生に一度は真剣<sup>しんけん</sup>な気持ちにさせられるものにぶつかつてみたいと思うことは、そりやあたし達にだつて、ちゃんとあるわ。」

○「流行<sup>はん</sup>なんてつまんないと思うんだけれど、やつてみれば悪い気持もしないものね。」

○「第一、朗か<sup>ほがら</sup>にしなくつちや損<sup>そん</sup>じやなくて。」

○「いざとなつて決心<sup>たけん</sup>すりや、裸のモデルにでも平氣でなれますわ。そして食べて行きますわ。」

○「あたし達に向つてはつきりした考えを言えと言つたつて、そりや無理ですわ。まだまだいろいろ経験してから考え方を決め度<sup>た</sup>いと思つて居るんですもの。」

○彼女の笑いは、全く自然に見えるほど洗練せんれんされている。けれども彼女は、腹の底から笑った味を知らない。



## 青空文庫情報

底本：「愛よ、愛」パサージュ叢書、メタローグ

1999（平成11）年5月8日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十二巻」冬樹社

1976（昭和51）年9月20日初版第1刷発行

※表題は底本では、「現代若き女性一気質『かたぎ』集」となっています。

※「慥《こしら》えた」の表記について、底本は、原文を尊重したとしています。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2004年3月30日作成

2013年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://wwwaozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 現代若き女性気質集

## 岡本かの子

2020年 7月18日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>